



語
り
た
い

夢
が

あ
り
ま
す

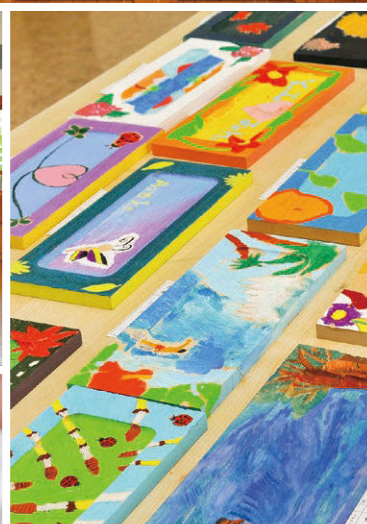
日出学園創立90周年誌



語
り
た
い
夢
が
あ
り
ま
す

日出学園
創立90周年誌





創立90周年を迎えて



理事長・学園長

青木貞雄

元教職者で、後に実業家に転じた青木要吉初代理事長をはじめとする菅野在住者の交友を通じ、「昔の寺子屋のような、少人数制で家族的な環境で子供の個性伸長を図る学校創設」の機運が生まれ、有志が土地、資金等を寄付し、「勤勉・正直・公助に重きを置き、多様な価値観に基づく強き実践力及び旺盛なる心身発達力の涵養」を建学の精神とする幼稚園及び小学校を、1934年4月に創設しました。前年12月の皇太子（現・上皇陛下）誕生を祝い、「日の出」と言われた時代を背景に、校名は「日出学園」としました。その後の学制改革を経て、1947年に中学校、1950年に高等学校を各々開校、本学園は、幼稚園から高等学校までの総合学園として、この度、創立90周年を迎えました。

外環道路建設に伴う移転を強いられ、数百m北の2.4万㎡の土地に小学校・中学校・高等学校一体型校舎を2008年夏に、伝統の砂の園庭を含む旧中学校・高等学校棟跡地4.3千㎡に木造平屋幼稚園舎を2009年夏に、各々新築・移転し、11月1日に創立75周年記念式を挙行了しました。

2005年より、中期5ヶ年運営計画を策定して経営安定化に取り組みましたが、近年は、「生徒・保護者から選ばれ、かつ、入学して良かったと言われる日出学園創設」をテーマに、生徒・保護者の要望をも勘案し、従来の徳育重視に加え、生徒の学力強化、特に、高校生の国公立を含む難関・名門大学進学実績向上を目指し、教育内容、施設・設備の充実、及び教員の授業力向上等に注力しています。

幼稚園は、「自由保育」を基本に、小学校への円滑な進学に資する年長児の幼小連携教育拡充、小学校は、少子化時代を考慮した3クラス102名制移行（1・2年生は4クラス制）、並びに高学年の教科担任制、そして、中学校に放課後学習センター、及び高等学校に特進クラス等を導入しました。更に、中学校・高等学校では元より、小学校高学年の算数及び低学年の英語等で、生徒の学力に合わせた習熟度別クラス拡充、並びに情報技術を含むSTEAM教育強化を図りました。幼稚園の英語遊びに始まる、本学園の特徴を生かした「将来、社会に出て役立つ実践的英語力習得」一貫教育には、ネイティブ教員強化、英語授業充実、留学生受け入れ・送り出し等を推進しています。尚、生徒の能力開発、及び高い目標への挑戦意欲醸成に資する部活動強化を含む文武両道追求が、現中期計画の課題の1つです。

就業保護者増加に配慮し、幼稚園預かり保育拡充、小学校放課後学童保育及び校内学習塾導入等も行いました。

これら取り組みの成果もあり、保育園指向の高まり等で園児が減少した幼稚園を除き、入学応募者増加、及び募集定員の恒常的確保が実現した現在、ICT活用等の先進教育推進に向けた教育環境整備を強化しています。

技術・情報等の進化により世界が急激に変化・進歩すると同時に、少子化の進行もあり、学校間競争は激化しています。このような中、本学園は、「生徒・保護者から選ばれ、かつ、入学して良かったと言われる日出学園」として、100周年、150周年を迎えられるよう、創立90周年を機に、改めて、建学の精神に基づく教育・指導を通じ、社会生活の基本である校訓「誠明和＝なおく、あかるく、むつまじく」の精神実践力習得は元より、将来、地球規模で活躍できる強い精神力・体力、並びに深い思考力、広い視野からの判断力・洞察力、及び意思の明確な表現力等を備えた生徒の育成を図っていきたいと考えています。



創立90周年記念事業
委員会委員長

篠原正幸

まずは、創立90年を迎えられたこと、誠に素晴らしく、お慶び申し上げます。ここまでの道のりは、険しく厳しい時もあったと推察しますが、「なおく あかるく むつまじく」の校訓のもと、時代の変化に応えつつ、何より「子供たちのために何ができるのか」を常に考え進められた教育方針に敬意を表します。

委員会では、先人のご功績を想いつつ、さらに未来に繋げることを創立90周年の意味としました。そして、「あと10年で100年」との観点から「未来へのアプローチ」とした周年事業を進めていくことが大事ではないかと考えたのです。

「誰にとっての未来か」、それは「園児、児童、生徒たちの未来」と位置づけ、テーマを「語りたい夢があります」としました。そこで、子供たちに「将来どんな大人になりたいか。そのために学園に必要なものは何か」というアプローチでアンケートや聞き取りを実施し、整理分析したところ、子供たちが求めたのは「つながり」「協調」でありました。

このことから、事業として「メディアルーム」を改築し、相互理解や切磋琢磨が促進できる環境としました。また、スポーツでのチームワークや一体感などを培うためアリーナの空調設備を増設し、さらなる文武両道に寄与いたします。幼稚園については、「遊びを通じての成長」のための遊具の新設を計画しました。これら事業に多くの「おとな」たちの賛同をいただき、「子供たちの未来づくり」をサポートすることを事業運動とさせていただきました。

不確実で混とんとした世界情勢、環境破壊など、問題が山積している社会だからこそ、「真心があり、前向きで、愛情あふれる人材」が必要とされると考えます。今回の90周年事業を通じ、子供たちがしっかりと未来を見据えた若人に成長されることを切に願う次第です。

最後に、ここまで多くの保護者、先生、卒業（園）生の皆さま、そして、同窓会、ひので会、企業様にご支援ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

創立90周年祝辞



同窓会会長
馬場義一

日出国創立90周年、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

幼稚園、小学校、中学校・高等学校まで設備の整った立派な園舎・校舎・施設ができ、多くの在校生が学んでいるのを見ると、かつて日出国で学んでいたことが誇らしく思えてきます。私が日出国にお世話になっていた頃は、小学校2クラス、中学校1クラス、高等学校でも1クラスか2クラスの少人数でこじんまりとした学校でした。入学した当時は幼小中高の園舎・校舎も木造で石炭のだるまストーブ。校庭の周りは松の木が多く、田んぼが広がり、夏の暑い時には窓から心地よい風が入ってきました。小学生の頃は、始業時間の1時間以上前に学校に行って校庭を走り回り、休み時間になると校庭に飛び出し、先生も一緒になってよく野球をしていたのを思い出します。

小人数の学園だったので、運動会も幼稚園から高等学校まで一緒に開催していました。幼稚園生や小学生を中学生・高校生がよく面倒を見ていました。中学生・高校生は運動会の出番は少なかったですが、特に小学生から中学生・高校生までバトンを繋ぐ紅白リレーは見ものでした。今でも応援の歓声が耳に聞こえてくるようです。

同窓会も一昨年創立70周年を迎えました。毎年多くの日出国卒業生を迎え、会員数も19,000名を超えています。これからますます増え続ける同窓生と学園を繋ぐパイプ役として、同窓会は結束して日出国を応援してまいります。

卒業した時代、世代は違っても、同窓生が共有しているのは校訓です。日出国の校訓、誠(なおく)明(あかるく)和(むつまじく)で同窓生も在校生も繋がっています。日出国で過ごした年月に、先生方に感謝しつつ、これからも過ごしてゆきたいと思っています。これから創立100周年に向け、日出国のますますのご発展をお祈りいたします。

日出国創立90周年への祝辞



ひので会会長
長島幸寛

日出国理事長兼学園長の青木貞雄先生をはじめとする教職員の皆様、幼稚園から高等学校までの園児、児童、生徒の皆様、卒業生並びに同窓会の皆様、創立90周年誠におめでとうございます。

昭和9年(1934年)の開校より、2024年に創立90周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。2024年度ひので会を代表致しまして、お祝いの言葉を申し上げます。

日出国の、「社会規範を遵守し、正しい倫理観に基づく行動を实践、豊かな教養と深い洞察力をもった、心身ともに健全な人間を育てる」という教育理念に私も大変共感致しております。この中でも、「寺子屋的な少人数制の家族的で自由闊達な校風」の精神に基づいた教育に感動したエピソードがございました。

今からおよそ11年前の学校説明会に参加したことを昨日のことに思い起こします。小学校昇降口から視聴覚室に向かう途中で、下駄箱の上履きや登校靴が奇麗に整頓され、小学校棟の象徴でもある大階段ですれ違う児童生徒一人ひとりが、私達に気持ちよく挨拶をしてくれるだけでなく、視聴覚室までの案内を進んで引き受けてくれました。

児童生徒の様子を通して、校訓である「誠(なおく)・明(あかるく)・和(むつまじく)」を体感し感銘を受け、そしてこの出来事が日出国との邂逅となりました。

近年のひので会では、年間を通して制服リサイクルバザー、親睦スポーツ大会、日出祭への参画、講演会等の活動を行っております。また、父の会をはじめとしたサークル活動も活発に行われております。

ひので会の活動を通して、諸先生方や在校(園)生と交わり、子ども達の充実した学園生活の一助となれることは、大変な喜びであります。今後のひので会の活動も、在校(園)生に寄り添いながら保護者の皆様や日出国の関係者の皆様とともに、ひので会の諸先輩方によって始まった活動の継続はもちろんのこと、これからの時代に求められることや必要に応じて新たな活動も検討していきたいと考えております。

最後になりますが、創立90周年を迎えるにあたり、今の私達がひので会として、創立90周年のお祝いを共に分かち合うことができるのは、日出国の関係者の皆様やひので会の諸先輩方が紡いでこられた歴史と実績の賜物であります。この場を借りて深く御礼申し上げます。

来る100周年に向けて、日出国の関係者の皆様、保護者の皆様方とともに、在校(園)生はもちろんのこと、これから入学(園)なされる園児・児童・生徒、子ども達一人ひとりの充実した学園生活のために活動を推進してまいります。

校訓

誠（なおく）

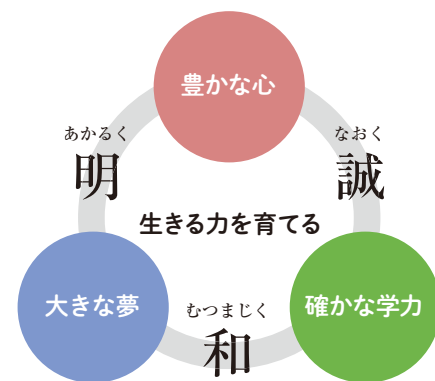
「至誠を基とし中正の道を尚ぶこと」

明（あかるく）

「明朗快活にして責任を重んずること」

和（むつまじく）

「和衷協同して苦楽を共にすること」



建学の精神

- 一、日本精神の涵養に重きを置き
霊的教育の基礎を確立すること。
- 一、旺盛なる心身の発達力を涵養すること。
- 一、精確にして強き実践力を養うこと。

松葉色

日出国園のスクールカラーは「緑」とされていましたが、明確な定めはありませんでした。創立90周年を迎えるにあたり、スクールカラーを日本の伝統色である「松葉色」と決めました。学園旗の濃い緑色を模したもので、菅野の地に茂る黒松と園児・児童・生徒の温順明朗な気風を象徴しています。

【日出国園の松葉色】

・16進表記 #3F7735 ・CMYK (60, 0, 80, 50) ・マンセル値 10GY 4/6
・RGB (63, 119, 53) ・HSV (110°, 55%, 46%)



学園章



波間から力強く昇る日出をシンボライズした学園章は、園児・児童・生徒の可能性を表現しており、本学園の教育の象徴です。

日和かっぱ



平成27(2015)年度に、園児・児童・生徒より学園オフィシャルキャラクターを募集しました。全33作品の中から「誰もが描きやすく癒されるキャラクター」を目指して描かれた当時高校3年生の作品「日和かっぱ」が選ばれました。



目次

- 2 口絵
- 4 発刊の挨拶
- 6 祝辞
- 8 校訓／建学の精神
松葉色／学園章／日和かっぱ
- 10 「将来の夢」についてのアンケート
- 13 活躍する在校生 ～10年後の自分へ～
- 18 90周年記念事業
- 20 特別企画 日出国園座談会
- 24 学園の10大ニュース
- 26 近15年の歩み
- 40 日出国園75年の歩み
- 42 編集後記

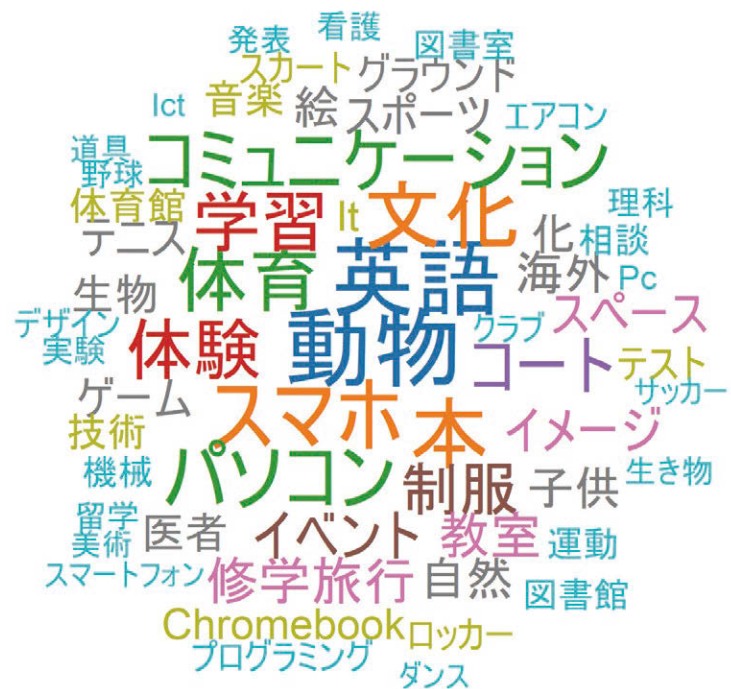
「将来の夢」についてのアンケート

日出学園創立90周年を迎えるにあたり、全学在園生を対象に“将来の夢”に関するアンケートを実施しました。ここでは、幼稚園、各校のアンケート結果（上位）と合わせて、テキストマイニング^{（注）}を行い、分析・可視化した図を紹介します。

なお、このアンケート結果をもとに、創立90周年記念事業を決定しました。また、10年後の100周年に向けて毎年実施していく予定です。

注）テキストデータをフレーズや単語に分解して詳細に解析し、有益な情報を抽出する分析手法

実施時期	2022年9月
対象者	幼稚園園児～高等学校生徒まで全学在園生



学園全体テキストマイニング結果
（幼稚園、各校の回答をまとめて分析）

小学校

設問

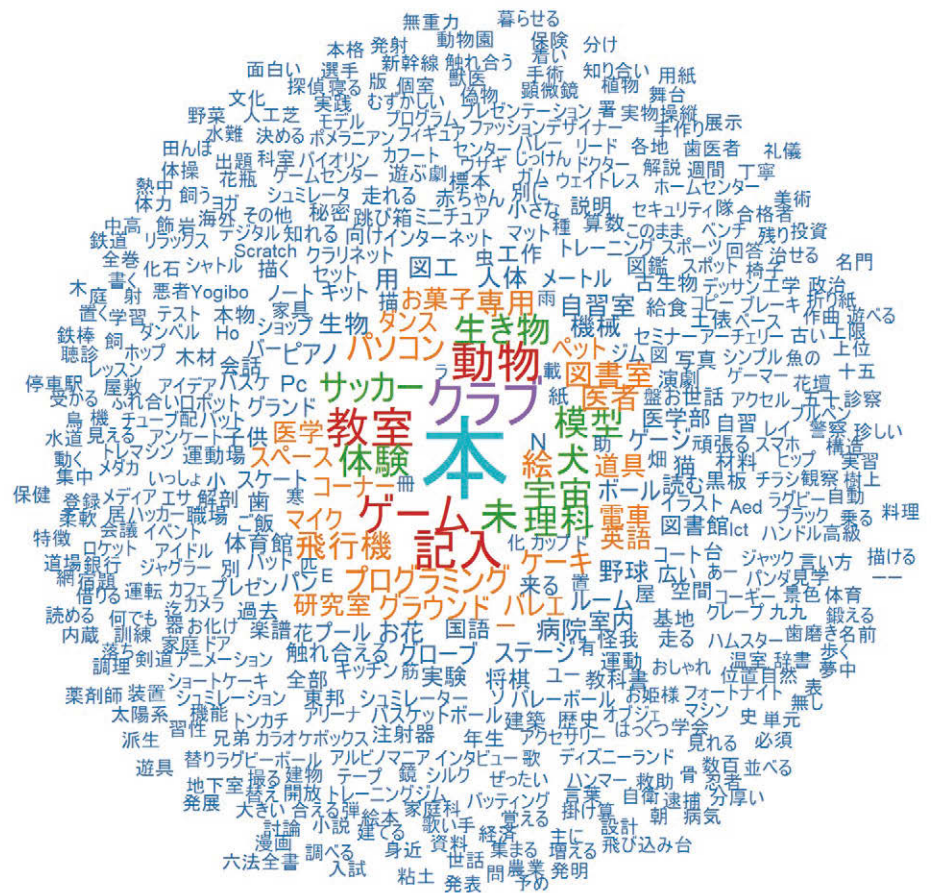
将来の夢はなんですか
夢を実現するため学校にあったら
良いなと思うものはなんですか

回答方法：アンケート回答 回答者数：480名

集計方法：回答キーワードを大分類・中分類の2段階で分類し、回答数を集計

回答ワード上位

- 書籍・情報機器の充実
- 動物の飼育
- 医療関連設備・資料



小学校テキストマイニング結果

幼稚園

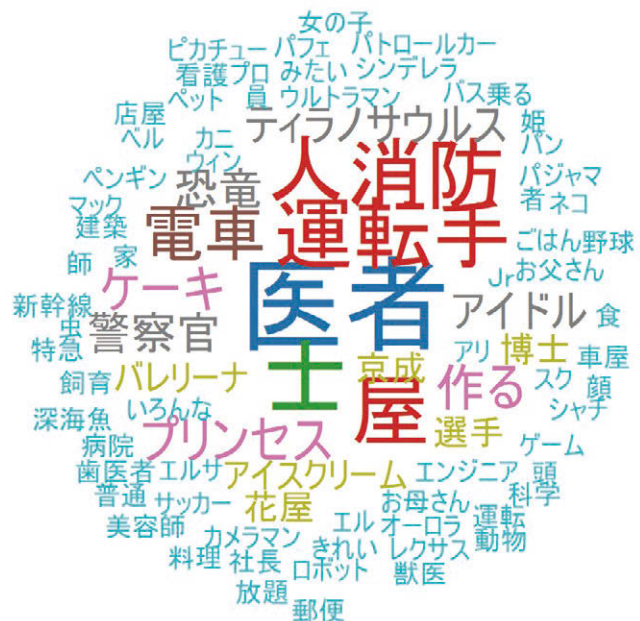
設問

大きくなったらなにになりたいかな
どうしてなりたいたと思ったかな

回答方法：担任による聞き取り 回答者数：85名

回答ワード上位

- 医者・歯科医師
- 電車バス運転手
- パン屋ケーキ屋



幼稚園テキストマイニング結果



佐々木智紀さん

小学校6年生

漢検上位級合格
学業成績優秀者

歴史が好きで、日本100名城に行ってスタンプを集めています。今までに36の城へ行きましたが、一番感動したのは松本城です。雪景色がすごく綺麗だったのですが、城の床がとても冷たかったのを覚えています。

小学校2年生の時に、NHKの大河ドラマ『青天を衝け』を見てから、歴史が面白いと感じるようになりました。この頃から漢検（日本漢字能力検定）も受けるようになり、2年生で7級を取った時には、満点で賞をもらいました。これがやる気となって、毎朝の漢字学習を続け、今では準2級（高校在学レベル）まで合格しています。

日出学園小学校では、一人ひとりの個性を尊重してくれます。例えば、3年生の授業で漢字の熟語を発表する際、私は歴史上の人物の名前をたくさん用意していたのですが、担任の中村先生は私の気が済むまで発表を続けさせてくれました。6年生担任の小熊先生は、「成長ノート」を通じて自分の考え、長所、短所など自分を見つめ直す機会をくれます。自分の意見を認め、受け入れてもらえる日出学園小学校で、私もののびと自分の意見を言えるようになりました。

将来は歴史学者になりたいと思っています。歴史の面白さや素晴らしさを広めて、歴史好きな人を増やしたいからです。特に日本史、中でも鎌倉時代や戦国時代、戦前に関心があります。歴史上の人物としては、明智光秀が好きです。織田信長を討った本能寺の変から裏切り者のイメージが強いですが、信長が家臣を追放したり、仏教勢力を弾圧した

りしたから立ち上がったわけで、自分が良くないと思うことを指摘できる人だからです。

10年後には、大学で歴史を勉強したり、歴史好きな仲間と歴史について話し合ったりしてみたいです。また日本100名城も制覇したいと思っています。たくさんの人からいろいろな意見を聞きつつ、自分の意見もしっかり持って、広い視野を持った人になりたいと思います。10年後の自分には、「楽しく、元気に過ごして、できれば日本100名城を制覇してください」と言いたいです。



金坂友侑さん

中学校・高等学校3年生

水泳部全国大会出場
学業成績学年1位

私は水泳部に所属しており、全国中学校水泳競技大会の競泳で、表彰台に上がることを今の目標にしています。

もともとプールやお風呂など水に触れることが好きだったので、自分から水泳を習いたいと思い、4歳より始めました。その他にはサッカーやダンス、バスケットボールのクラブチームにも所属し、書道、エレクトーンも習い始めました。小学校5年生の時に、初めて水泳の全国大会（ジュニアオリンピック）にリレーで出場しました。その後200m個人メドレーで成績が出始め、将来は競泳選手として結果を出したいと思うようになり、スポーツは水泳に専念するようになりました。大学までは競泳に集中して、日本代表になってオリンピックに出場することが夢です。

ずっと憧れている選手は、瀬戸大也選手です。瀬戸選手が残してきた素晴らしい成績は、世界水準の目安になるものです。種目が自分と同じなので、泳ぎ方など学べるがたくさんあります。

週6日学校帰りにクラブチームに通い、1日3時間練習をしています。約1時間陸上でトレーニングをしてから、プールで泳ぎます。勉強は、夜だと疲れているので、朝早起きしてやるようにしています。辛い時もありますが、やっぱり水泳が好きだから続けられるのかなと思います。

日出学園に入学したのは、6歳上の姉が卒業生で、学者さんのように知識が豊富でユニークな先生がたくさんいると聞いていたからです。入学して先生・友達のおかげで文武両道が実現できていることが、

自分の自信にもなっています。大会や遠征、合宿の際には先生がフォローしてくれたり、友達がノートを取ってくれたりと協力してくれるのでとても助かっています。

10年後には、水泳以外に夢中になることを見つけ、それを追求しながら世の中の役に立つ仕事に就きたいと思っています。学校で適性職業検査をした時は、海上自衛隊員や消防士などに向いているとの結果が出ましたが、研究者になって成果を残すのも楽しそうだなと考えています。私はドジャースの大谷翔平選手と誕生日が同じなので、大谷選手のようにカッコよく二刀流で、好きなことと仕事を両立して頑張りたいと思っています。10年後の自分には、「10年前の自分に負けないくらい何かに打ち込んでいますか」と聞きたいです。





神原葵さん

中学校・高等学校5年生

バトントワーリング部全日本選手権大会出場

私は、バトントワーリングに打ち込んでいます。幼い頃、近所のお姉さんのお友達がバトンをやっていて、触れさせてもらったのが最初のバトン経験です。私は家に帰るなり母に、「バトンがやりたい」と言い、4歳から習い始めました。

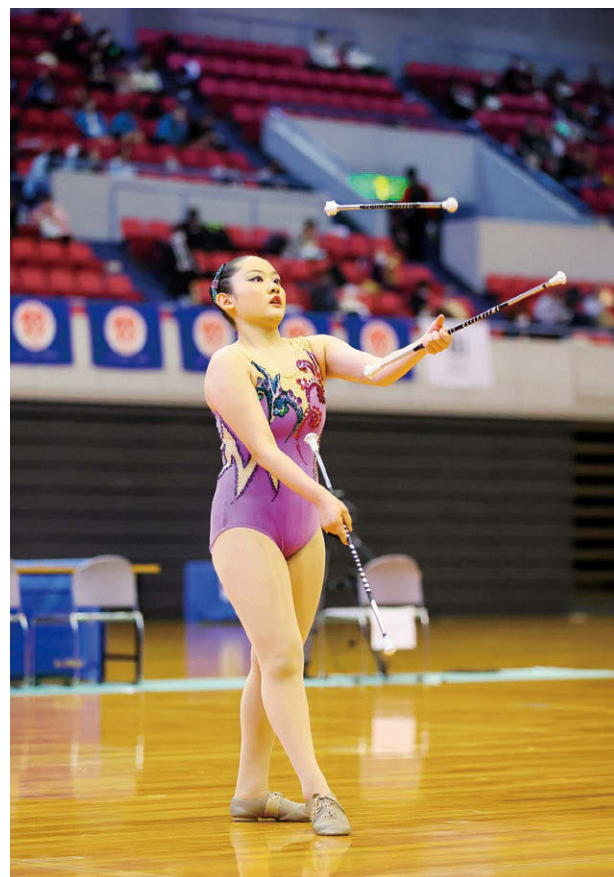
小学校2年生より個人で大会に出るようになり、5年生からはバトンを2本使うトゥーバトンと、3本使うスリーバトンで、初の全日本選手権大会出場を果たしました。それから毎年、全日本選手権大会に出場しています。今年3月には、名古屋で行われた全日本選手権大会にて、トゥーバトンで7位、スリーバトンで2位に入賞しました。

大変な時期に救われたのは、日出学園バトントワーリング部の同級生や先輩方の存在です。みんなほとんど初心者で、私が教える場面が多いのですが、初めてバトンに触るみんなの笑顔がとても良くて、練習が辛い時でもそれがすごく支えとなりました。また、日出学園では先生との距離が近いので、試合で公欠になった時などわからないことを聞きに行くと、すぐに教えてくださり、相談ごとにも気軽にできる機会がいっぱいあって助かります。

近い将来の夢として、令和7(2025)年3月に行われる日本代表選考会で結果を出し、世界大会へ行くことを目指しています。その後は、バトンをもっと広めていくことが私の遠い将来の夢です。残念ながらバトンはオリンピック種目にはなっていないので、バトンをオリンピック競技にするためにも、バトンを使った講演会などを開いて小さな子どもたちにバトンの楽しさを伝えたり、バトンと踊りを組み

合わせた舞台活動もしたいと思っています。

10年後も、きっと私はバトンをやっていると思いますが、自分に自信がないという欠点を克服して、自分を好きになっていたいし、バトンを通じていろいろな世界の方々と年齢を問わずたくさん関われたらなと思っています。10年後の自分には、「とにかくがむしゃらに、好きなことを続けていればきっと夢は叶う」とエールを送りたいと思います。



森川亮太郎さん

中学校・高等学校6年生

第15回千葉県高校生英語ディベート大会3位
学業成績2位

私は中学の時から英語部に入り、高校1年生になった年に新しく創設された学習クラブ「英語ディベートクラブ HNDDS」にも参加しています。

令和5(2023)年10月千葉県高校生英語ディベート大会において、4人チーム戦で3位を取りましたが、惜しくも全国大会出場権を逃しました。ディベートというと、相手を論破するイメージが強いですが、決してそうではありません。肯定側と否定側に分かれて、与えられたテーマに対し、それぞれの立場から議論をし、反論したりしながら、審判団を納得させられるだけの説得力のある論理を展開した方が勝つのが競技ディベートです。4人で役割分担をしますが、私は最後のまとめのパートを担当しているので、同じチームのメンバーが話した内容を引用し、言及しながら、論理を構築するように努めています。

英語ディベートの他には、勝ち負けではなく、話し合いながら考えを深めていくコミュニケーション・ディベートをしています。例えば、「完全な善悪であるのか」や「何のために途上国支援をしているのか」といったテーマで考えを深める、とても良い学びになっています。

将来は、本当に「夢」ではありますが、国際問題、世界中の政治的な問題、地域紛争などを、法の力で解決したいと思っています。昔から国際問題のニュースに興味がありましたが、2年前(2022年)に起きたロシアのウクライナ軍事侵攻をきっかけに、法で守ることはできないのか、と考えるようになりました。どういう職業に就いたらその夢が実現できるのかは、まだ調べきれていないのですが、ど

んな大学に入ったとしても、4年間国際関係法を学び、将来の自分の夢を実現できる仕事に向けて進んでいければなと思っています。

自分は飽きっぽい性格で、興味が移り変わりやすいので、10年後は、夢を諦めているんじゃないかな、とも思いますが、「10年前の自分は、こんなことを考えていたんだよ」ということは、覚えておいてほしいと思います。



90周年記念事業

日出学園では、創立90周年に際し実施した「将来の夢」についてのアンケート（10-12 ページ）を基に、以下の記念事業を実施しました。

①「メディアセンター」（小・中高図書室）のリニューアル

思考力・判断力・表現力を育み、コミュニケーションの場となるスペースを創出しました。メディアルームではより高度なモノづくりができるPC環境を整え、STEAM教育の更なる充実を目指します。



中高メディアルーム



小学校読み聞かせスペース

②「アリーナ1・2」に空調設備を配備

文武両道の実現を目指し、体育関連施設の設備環境を整備します。



アリーナ1



アリーナ2

③「幼稚園遊具」のリニューアル

「自ら考え行動できる」幼児教育プログラムを今後も推進し、知力・体力を育む遊具に入れ替えます。



飛行機型遊具イメージ図（2024 年冬完成予定）

募金について

卒業生の皆様、在校生・卒業生保護者の皆様、関係企業の皆様、現任・退任教職員及び学園関係者の皆様のご協力により、2024年9月1日現在で425件、85,656,000円の募金が集まりました。目標額100,000,000円達成を目指し、2025年3月31日まで継続して募金受付を実施してまいります。

皆様からいただいた募金の使途は、メディアセンター改修費29,806,000円、アリーナ1・2空調設備費69,311,000円、幼稚園遊具4,884,000円、記念式典開催費1,000,000円、記念品制作費6,110,000円、印刷・郵送その他諸経費2,499,000円のとおりであり、園児・児童・生徒の夢を実現するため大切に活用させていただきます。

日出学園創立100周年、 そしてその先の未来に向けて

日出学園創立90周年を記念し、日出学園理事長・学園長、ひので会会長、同窓会会長の3者による座談会を開催しました。日出学園創立100周年に向けた取り組みや、日出学園の将来について語っていただきました。



左から、長島幸寛（ひので会会長）、青木貞雄（理事長・学園長）、馬場義一（同窓会会長） 令和6（2024）年4月8日実施

—— 令和6（2024）年11月に日出学園は創立90周年を迎えます。これまで創立90周年に向けて力を入れてきたことや、新たに始められたことなどについて教えてください。

青木 学園の日常運営においては、創立90周年に向けた特別な取り組みはありません。しかし20年前より、5年単位の「中期経営計画」を策定して経営強化に取り組んでおり、今年度は、令和3（2021）年より令和7（2025）年までの第4次中期経営計画の4年目になります。そのテーマは「生徒・保護者から選ばれ、かつ、入学して良かったと言われる日出学園創設」です。運営方針策定にあたっては、毎年、保護者、教職員、小学校5年生以上の児童・生徒を対象に実施しているアンケート調査の結果も反映させています。

そして、学校の現状、方針等を保護者の皆様に知っていただきたいという思いから始めた「学園通信『日出』」は、平成22（2010）年に創刊し、年に3回発行

しています。また、令和6（2024）年度より学園のホームページをリニューアルし、スマートフォンでの閲覧にも適したデザインにしました。

長島 保護者としても「学園通信」は毎回楽しみにしています。学園を知ることができる良い機会ですし、とても見やすく、読んでいと心が和みます。ひので会も、長年「ひので会報」を発行してきましたが、平成24（2012）年度の184号をもって紙媒体の発行を終了し、PDF化したものをウェブ上で公開するようになりました。平成29（2017）年以降は、ブログ形式でウェブ配信をしています。スマートフォンでいつでもどこでも見られると保護者の皆様にも好評です。

馬場 同窓会は、令和6（2024）年3月末に会員数が1万9,000人を超えました。「同窓会報」やニュースなどのウェブ配信も行っていますが、下は6歳から上は1期生の96歳と幅広く、なかなか紙媒体無しという

わけにもいきません。年2回の「同窓会報」発送費用に頭を悩ませてきましたが、平成29（2017）年に終身会費制度を導入してからは、財政が安定しました。

青木 ひので会も同窓会も、日頃から学園運営にご協力いただき感謝しております。幼稚園から高等学校までである本学園の特徴を生かした一貫教育の1つとして、近年、「将来、社会に出て役立つ実践的英語力習得」に力を入れて取り組んでいます。ネイティブ教員の採用強化を通じ、幼稚園ではネイティブ教員による英語遊びの時間を、小学校では高学年の英語の授業を週2時間に増やすと共に、低学年には令和6（2024）年度より、少人数習熟度別授業を導入しました。また、朝学習にネイティブ教員が作成した動画を配信する「英語タイム」を設けました。高校ではフィリピンの語学学校とオンラインの英会話授業を始めたほか、英語資格試験合格支援、また、留学生の積極的な受け入れ、および本学生徒の海外留学応援もしています。

長島 現在高校1年生になる私の息子は、全く英語に興味がないまま中学校に進学したのですが、高校に入ってから英語に興味を持ち始め、令和6（2024）年1月～3月までニュージーランドへ留学しました。息子が日出学園に入学して11年目に入りますが、保護者としては本当に日出学園で良かったなとつくづく実感します。

—— 未来を見据えながら、現在展開しているユニークな事業や試みについてお聞かせください。

青木 少子化や就労保護者の増加など社会環境の変化にも適切に対応していきたいと考えています。保育園指向が進む中、減少する園児数の回復が課題になっている幼稚園は、広い砂場の園庭での遊びを通じて自らが学ぶ「自由保育」の基本は変えずに、小学校への円滑な進学を見据えた幼小連携プログラムや英語遊びの時間を設けるなど、一貫校ならではの教育を導入しました。また、市川市就労支援型預かり保育の認定を得て、休園期間中も平日の朝7時30分から夜7時まで園児を預かる体制を整え、利用者

が増加しています。幼稚園の認知度を高めるため、京成菅野駅から視認できる「日出学園幼稚園」の看板を設置する計画も進行中です。

馬場 昔は京成菅野駅の真下が幼稚園で、電車を降りると園児の遊ぶ姿が見えたものです。東京外かく環状道路の計画が持ち上がり、現在地に移ってしまいました。



青木 小学校ではアフタースクールを始めましたが、令和6（2024）度よりその中に4年生以上を対象とした学習塾を開設し、外部の塾に通わずとも学力向上、中学校受験対策等を支援する体制を整えました。以前より実施してきた音楽・図工・書道・体育・英語に加え、学習指導要領改訂に先立つ令和3（2021）年度より4年生以上で主要5教科に教科担任制を導入した小学校は、少子化の進行を見据え、平成26（2014）年より募集定員を1学年102名に縮小（従前は160名）すると共に1～2年生は少人数の4クラス制できめ細かい教育・指導を行い、3年生以上は競争環境にも配慮した34名3クラス制に改変しました。

高等学校では、平成29（2017）年度より特別進学コースを設置し、少人数制のハイレベルな教育によって、生徒の国公立を含む難関・名門大学への進学を後押ししています。年々進学実績が上がるにつれ、中学校・高等学校の入試倍率が上がると共に、小学校から中学校への内部進学者も増加しています。

長島 学園が保護者や児童・生徒などの声を拾いながら、多様な施策が行われていることを嬉しく思います。ひので会では、卒業生や在校生から不要になった制服を寄付してもらい、新入生や在校生に提供するリ

サイクル活動を長年行ってきました。これはSDGs的にも有益であり、ここで得た収入は学園生活に生かせるように還元しています。



馬場 同窓会では毎年幼稚園から高等学校までの卒業生に、紅白饅頭と記念品を贈っています。日出学園の卒業生のお子様が日出学園に入学した際にお祝い金を贈る「入学お祝い制度」も、令和5(2023)年度より始めました。次世代が日出学園に入ってくれることは、学園にとっても同窓会にとっても喜ばしいことです。私の子も孫も日出学園でお世話になったように、何代にもわたって日出学園の素晴らしさを噛み締めて、豊かに成長してもらいたいと思っています。

—— 創立100周年に向けた助走とも言える創立90周年事業の経緯と、その内容や企画について教えてください。

青木 本学園の卒業生であると共に、元保護者でもある篠原理事を委員長とする創立90周年記念事業委員会が、令和3(2021)年11月に発足し、教職員、同窓会、ひので会にも参加していただき検討を重ねてまいりました。創立90周年は、創立100周年という大きな節目に向けたステップという位置付けで、「『知的資産』の再認識と創立100周年に向けた学園、および学校の目指す姿を宣言する」という目標を立てました。この「知的資産」とは、人材、教育力、組織力、学園関係者とのネットワーク、学校ブランド等を指します。

創立90周年記念事業は、「将来の夢」についてのアンケートを、園児・児童・生徒に実施した結果、友だちや仲間とのコミュニケーションをもっと取りた

い、充実した運動施設を求める等の声が多く寄せられたため、教育環境の整備に重点を置いて行うこととしました。具体的には、アリーナに空調設備設置、学園の図書館でもあるメディアセンターのさらなる充実、幼稚園の遊具のリニューアル、そして学園の歴史と未来ビジョンの映像化、記念誌の発行などです。

馬場 同窓会では創立者である青木要吉先生の胸像を、正門に設置しようと準備しております。青木先生が熱い思いで作られた学園と校訓を、永く未来に残したいという思いが詰まった胸像です。

青木 以前小学校の入り口ホールにあった小さな胸像は、現在はアーカイブセンターに置かれてあるので、非常にありがたいお心遣いだと感謝しています。

長島 園児・児童・生徒の声を反映し、教育環境の整備を進めていただけて、保護者としてありがたいと思います。ひので会、保護者としても、創立90周年事業に賛同し、少しでも支援できないかと考えております。

—— 長い伝統を重んじながらも、少子化が進む時代に選ばれる学園、保護者や同窓生が誇れる学園であり続けるために、今後何が必要だと考えますか。

青木 基本は建学の精神に基づく教育・指導・学園運営です。もともと寺子屋的なものを志したわけですから、少人数制で家族的な校風を維持していくと同時に、社会生活の基本となる校訓の精神を実践できる、心身ともに健全で強靱な生徒、単なる知識習得だけではなく、習得した知識を実践で活用できる思考力を備えた生徒を育成していきたいと考えています。

馬場 私が日出学園に在学していた頃は、毎日朝礼で校訓の「誠・明・和」を唱和していたので、今でも暗唱できるほど、同窓生はこの校訓をずっと引き継いでいます。我が家のように、三代にわたり日出学園に通う家庭も数多くあります。最近は進学率も非常に高く、学力も向上しているので、この調子で発展させていきたいですね。

長島 日出学園には、臨海学校や林間学校、スキー教室など、さまざまな行事があります。日頃なかなかできない経験ができ、園児・児童・生徒の心身の成長を促してくれていると感じています。

馬場 臨海学校では、60年以上前より瑞穂会という同窓生の組織が、児童・生徒たちに「日本泳法神伝流」を指導してきました。背の立たない海での遠泳など普段できないことを、ぜひ児童・生徒たちに経験してもらいたいし、これからもこうした活動をずっと続けてもらいたいですね。

長島 私自身は日出学園の卒業生ではありませんが、私も日出学園に行きたかったと思うほどです。「日出学園に子どもを入学させたい」という保護者は、私の周りにも一定数います。子どもたちを日出学園に通わせている保護者が、入園・入学前の子を持つ保護者に「とてもいいよ」と薦められることが一番いいことなのかなと思います。

青木 スポーツを含めた部活の活性化も進めたいと考えています。学園には個人的にスポーツなどで優秀な成績を残している児童・生徒がいますが、ぜひ一つでも二つでも強い部活動を育成し、生徒たちの活力向上、および文武両道の学園として知名度向上につなげたいと考えています。そのため、昨年より奨学金制度を見直し、課外活動で優秀な成績を残した児童・生徒も対象としました。

長島 まさに私の長男は、日出学園の小学校でラクロス部に入り、すごくラクロスが好きになり、中学校に行ってもラクロスが続けたいと、「中学校にもラクロス部を作ってほしい」と学校にお願いしたほどでした。活発な部活動は児童・生徒たちにはとても魅力的ですし、保護者にとっても喜ばしいことだと思います。

—— 100周年、そしてその先の未来に向けた抱負、夢などを、それぞれの立場からお聞かせください。

青木 「生徒・保護者から選ばれ、かつ、入学して

良かったと言われる学校」になることが、一番重要だと思います。その結果、幼稚園から高校までの応募者が増え、在籍定員を安定的に満たすことが学園運営上の最終的な目標です。そのために、園児・児童・生徒にとって、安全で安心して通学できる日出学園を作ること、生徒の学力向上に資する先進教育の追求に向けた施設・設備の拡充を考えています。また、教職員が働きがいのある職場の醸成も大切です。



長島 10年後の創立100周年の際には、今のひので会役員たちはほとんどいないと思いますが、学園や園児・児童・生徒のためにひので会がお役に立てるよう、今年度より計画的な資金の積み立てを開始する予定です。なるべく保護者から徴収するのではなく、制服リサイクルなどの収入を充てたいと考えています。今後も、私たちひので会の役割は、学園長をはじめ先生方が園児・児童・生徒に指導しやすい環境は何か、充実した学園生活を送るためには何が必要かという視点でサポートさせていただくことだと考えております。

馬場 同窓会も、創立100周年に向けた資金の積み立てをしていきたいと考えています。立派な校舎でも修復・修繕やリニューアルは必要でしょうし、いろいろなことに備えて資金の準備をしていくことが大事だと思います。

水泳指導をしている瑞穂会を含め、同窓会も日出学園がますます発展できるように協力を惜しみません。同窓会は日出学園の応援団ですから、同窓生一同が結束して、これからも母校を支えていきたいと思っています。

学園の10大ニュース 平成22(2010)年～令和6(2024)年

① 災害・緊急時の対応

東日本大震災(2011年)



新型コロナウイルス感染拡大(2020年)



② 未就園児親子クラス「ふたば」を開始
【幼稚園】(2011年)



③ 預かり保育開始
【幼稚園】(2011年)



④ 「わくドキプロジェクト」を始動
【幼稚園】(2012年)



⑤ 少人数教育スタート
【小学校】(2014年)



⑥ 「ICT推進構想」を策定(2018年)



⑦ 「南極授業」実施(2022年)



⑧ 放課後の学習支援・学童保育を開設

「ひのキッズ」を校内に開設【小学校】(2022年)



「放課後学習支援センター」を開設【中学校・高等学校】(2020年)



⑨ 英語一貫教育の推進

英語あそび開始【幼稚園】(2014年)



英語タイム開始【小学校】(2019年)



英語キャンプ開始
【小学校】(2019年)



英語キャンプ開始
【中学校・高等学校】(2017年)



少人数英会話授業開始
【小学校】(2023年)



英語資格試験全員受験開始
【中学校・高等学校】(2015年)



⑩ 難関大学進学を目指す特進コース開設
【高等学校】(2017年)



近15年の歩み「学校法人」

1 | 新校舎完成：2009～2010年

日出学園は平成17（2005）年、東京外かく環状道路建設計画による校舎移転の受け入れを正式に決定し、理事会や各園・校長からなる新校舎建設委員会を立ち上げました。同時に、①75年の歴史を引き継ぐ学校づくり、②新しい教育を支える環境づくり、③安全・安心な学校づくり、④情報化に対する設備の充実、の4つの観点を軸に基本構想を策定し、事業の検討を進めました。

平成20（2008）年8月、小学校、中学校・高等学校校舎が竣工、翌平成21（2009）年8月、幼稚園園舎が竣工し、75周年の節目に新たな校舎でのスタートを切りました。敷地内を南北に貫くプロムナードの東側に位置する小学校校舎は、普通教室を全て南向きに配置し十分な採光を確保しました。また、コモンスペースや開放感あふれる屋上庭園を設け、多彩な学習形態に合わせた教育環境を実現しました。プロムナードの西側に位置する5階建ての中学校・高等学校校舎も、教室はすべてグラウンドに面した南向きに配置し、学習形態に対応した設計としました。また、図書館やメディアルーム（PC教室）、視聴覚室等を有するメディアセンター棟や、剣道場、トレーニング室、屋上屋外プール等があるスポーツゾーンは、異年齢交流を促す、小学校から高等学校まで12学年の共有施設としました。



移転の第一条件だった「砂地の園庭」

一方、「砂地の園庭」を移転の第一条件に掲げた幼稚園は、旧中学校・高等学校の敷地に移転しまし

た。可能な限り前園舎の雰囲気を残した木のぬくもりある平屋の園舎で、自然に触れる幼児教育を具現化しました。

2 | 東日本大震災：2011年

平成23（2011）年3月11日午後2時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の東日本大震災が発生し、千葉県市川市でも震度5弱の揺れを観測しました。卒業式間近であったため、部活動以外の児童・生徒はほとんど下校していましたが、約300名の児童・生徒に加え、多くの教職員が残っていました。

児童・生徒の安全の確保を最優先し、教職員が校内を回り、全員をグラウンドの中央に避難させ、無事を確認しました。家庭・保護者に無事を知らせる電話連絡を各自にさせましたが、なかなか電話がつかず涙する児童・生徒もありました。保護者が迎えに来た者、保護者と連絡が取れた近隣在住の者は下校を開始し、その他の児童・生徒は保護者が迎えに来るまで視聴覚室で待機させましたが、公共交通機関が不通のため、帰宅困難者150名以上が教室で一夜を明かしました。

教職員が近くのスーパーやコンビニエンスストアを駆け回り、菓子パンやカップ麺、白米等の食料を確保しました。幸い、電源やインターネット接続は確保できていたため、情報収集には困らず、停電にもならなかったため、調理室で温かいご飯を炊き配給しました。また、非常用に用意していた毛布も暖を取るために活用しました。翌朝には全ての児童・生徒たちの保護者と連絡が取れ、鉄道も動き出し、全員が無事帰宅することができました。

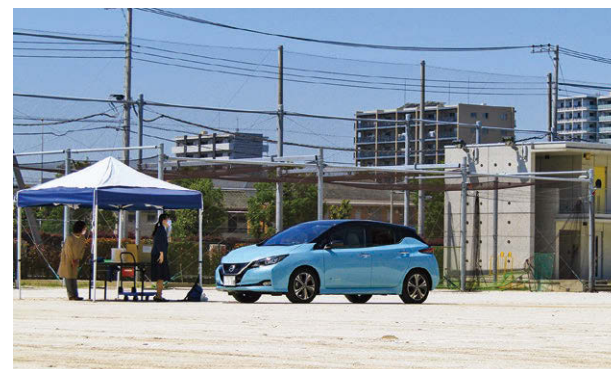
固定されていない書籍の落下等があったものの、校舎は震度7の地震にも耐える耐震構造のため被害はなく、けが人等もありませんでした。しかし、電話回線がパンク状態となり、保護者との連絡がスムーズに取れなかったことから、後日X（旧Twitter）の公式アカウントを取得し、日常・緊急

時の情報発信手段として運用を開始しました。また、非常時に2,000人が3日間生活できる保存食と飲料水、毛布の備蓄に加え、計画停電等に備えて自家発電機を新たに手配する等、対策を強化しました。

3 | コロナ禍での対応

令和2（2020）年、新型コロナウイルスが猛威をふるい、4月7日に千葉県にも緊急事態宣言が発令されました。2月27日より約2週間の臨時休業を経て春季休業に入った日出学園では、4月時点まで児童・生徒・保護者・教職員の感染者は出ていませんでしたが、4月2日より5月6日までの臨時休業を決定し、その後さらに5月31日まで延長しました。

休業期間中も「学びを止めない！」を旗印に、PC・スマートフォン等を使ったりモート学習や、教科書・教材の家庭への送付等、できる限りの手段を講じて保護者や園児・児童・生徒とのコミュニケーションを絶やさないようにしました。小学校では新しい制服を着る機会すらなかった新1年生に配慮し、児童が保護者と登校して、個別に担任教諭と会う「ドライブスルー方式面談」を実施しました。わずかな時間でしたが顔を見て会話を交わせる機会をつくりました。



「ドライブスルー方式面談」の様子

5月25日の緊急事態宣言の解除を受け、6月1日より分散登校を開始しました。同窓会より寄贈されたサーモカメラを校内各所に設置し、毎日検温し報告するフォームを作成しました。入学式ができな

かったため、各園・校において「入学セレモニー」を開催しました。令和2・3（2020・2021）年度は様々な宿泊学習や運動会、体育祭、日出祭等の中止を余儀なくされましたが、令和4（2022）年度より多くの学校行事が安全対策を万全にした上で再開しました。

4 | ICT化への取り組みについて

日出学園では平成28（2016）年度より、iPadや電子黒板を配備し、ICT機器を授業に活用する取り組みを始めました。平成30（2018）年度には「ICT推進構想」を策定し、幼稚園から高等学校まで学園全体における授業や運営の情報化を進める具体的な計画と、「ICTで教える（学ぶ）のではなく、ICTを教える（学ぶ）」というポリシーを明らかにしました。平成31・令和元（2019）年にはメディアルームのPC端末をノート型に入れ替え、中学校・高等学校ではChromebookとClassi、小学校ではiPadとロイロノートを導入しました。同時にWi-Fi環境の整備を行い、Google for Educationを全学で運用開始しました。

令和2（2020）年の新型コロナウイルス感染症による休業期間には、PCやスマートフォン等を利用したりモート学習を展開し、それまで進めてきたICT化の成果を発揮することができました。令和3（2021）年度の中学校・高等学校新入生より1人1台のChromebook導入を始め、令和5（2023）年には、中学校・高等学校の全学年への導入が完了し、小学生への導入も開始しました。同時に、1人1台端末との差別化を図り、より高度なモノづくりを行える環境として、メディアルームPCを構築しました。また、定期試験・入試でのデジタル採点も導入しました。

学園ホームページも平成26（2014）年度に全面リニューアルし、よりタイムリーで自由に編集しやすいCMS（コンテンツ管理システム）対応のサイトに変更しました。また、メールでの一斉連絡による保護者への情報発信や、ウェブアンケート等の双方向

情報伝達が可能になったほか、プリント等の配布物もウェブから閲覧できるようにし、各園・校のブログも充実した内容となりました。

5 | カリキュラムの充実

幼稚園、小学校、中学校・高等学校を擁する日出学園では、一貫校の特長を生かした異学校間交流と連携した学習活動を進めてきました。

それまで個別に実施していた中学校・高等学校学園祭、小学校学芸会、幼稚園作品展示、ひのでの集いを統一した学園祭「ひので祭」を平成20(2008)年より開催し、一貫校としてのつながり強化を図りました。

また英語においては、平成29(2017)年に英語一貫教育会議を設置し、幼稚園から高等学校までの一貫教育課程を通じた英語教育の充実を推進してきました。平成30(2018)年4月には小学校でもネイティブ教員を採用し、英会話の時間を開始しました。その後、ネイティブ教員の単独での授業や、ネイティブ教員の増員を実現し、幼稚園から中学校まで英会話の時間を増やしました。



幼稚園における英会話の時間

令和3(2021)年には高校生を対象にオンライン英会話授業を開始し、一人ひとりの聞く・話す力を伸ばしています。

6 | 安心・安全への取り組み

日出学園では、園児・児童・生徒の安全を第一に考え、保護者とも連携しながら、さまざまな安全対策・災害対策を行ってきました。遠方からの通学者の安全を考え、平成23(2011)年度に導入したのが「登下校見守りサービス」です。これは携帯するICタグにより、通学者が登下校時に校門を通過すると保護者へメール連絡が届くシステムです。また警備員を常駐させ、来校者のチェックや見回りをするとともに、学園内に防犯カメラを設置する等、不審者の侵入を防ぐためのセキュリティ強化にも努めました。

また同年には、東日本大震災での経験から始めたX(旧 Twitter)での情報発信や緊急時に保護者へ一斉連絡メールを配信するシステムを採用しました。平成31・令和元(2019)年には、全教職員がスマートフォンを常時携帯し、緊急時にすぐ通報できる態勢を整えました。このほか、警察直通の緊急通報ボタンやAED等も設置し、いざという時への備えを整えました。

7 | 社会貢献活動

日出学園には、園児・児童・生徒の学びを経済的に支援するための「日出育英会奨学制度」があります。家計急変等の経済的理由により就学困難な者を援助する従来の制度に加え、令和4(2022)年からは部活動等の課外活動で優秀な成績を収めた者にも奨学金を贈る制度を開始しました。活発な課外活動を後押しし、社会で有用の人材を育成することを目的としています。

8 | 創立90周年記念事業について

日出学園は、令和6(2024)年に創立90周年を迎えるにあたり、全ての園児・児童・生徒より「将来

どんな大人になりたいか、そのために今学園に必要なものは何か」というアンケートを実施し、それを基に創立90周年記念事業委員会は以下の記念事業を決定しました。

①「メディアセンター」(小・中高図書室)のリニューアル：小学生から高校生までが思考力・判断力・表現力を育み、コミュニケーションの場となるスペースを創出します。また、メディアルームではより高度なPCを活用したモノづくりができるようSTEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学を対象とした分野横断型教育)のさらなる充実を目指します。

②「アリーナ1・2」に空調設備を配備：文武両道の実現を目指し、体育関連施設の設備環境を整備します。

③「幼稚園遊具」のリニューアル：「自ら考え行



学園通信「日出」の紙面の様子

動できる」幼児教育プログラムを今後も推進し、知力・体力を育む遊具に入れ替えます。人気の飛行機型遊具に、うんていやらせん棒等を付け安全面に配慮した仕様に刷新します。

9 | 学園通信「日出」創刊

新校舎への移転が完了した翌年の平成22(2010)年4月、学園通信「日出」を創刊しました。これは、幼稚園から高等学校までである日出学園の特徴を生かし、学園全体の運営方針・施策・現状や、園児・児童・生徒・教職員の日々の活動状況等を、保護者、そして教職員に知らせるための学校情報誌です。各学期に1回、年3回のペースで発行しており、すでに40号を超えました。

近15年の歩み「幼稚園」

1 | 預かり保育の開始とその後の進展

日出学園幼稚園では、在園児保護者の子育て支援として、平成23(2011)年5月より8時から16時までの「預かり保育」を開始しました。「預かり保育」は就労のみならず通院など所用の際にも利用でき、保護者の子育て負担軽減を目的として始めました。

その後、就労される保護者からの要望もあり、徐々に受け入れ態勢を整え、平成26(2014)年にはお盆前後の学園休業期間を除く夏休み期間に園児を預かる「長期休業中預かり」を開始しました。平成28(2016)年には、保育時間を18時まで延長しました。

令和2(2020)年4月には新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により、5月まで一斉に休園となりましたが、エッセンシャルワーカーへの配慮から、国より保育事業継続の要請があり、4月13日から5月31日まで特別に預かり保育を実施しました。

令和4(2022)年には「市川市就労支援型預かり保育」対応幼稚園の認定を取得し、4月より年末年始を除く平日8時から18時まで預かり保育の時間を拡充し、さらに令和5(2023)年4月より7時30分から19時まで延長しました。

2 | 多様なカリキュラムの展開

日出学園では、幼稚園から高等学校までの一貫教育課程を通じたグローバル人材育成や、各校の連携推進を強化する中、幼稚園でも多様なカリキュラムを導入してきました。平成24(2012)年より「わくドキプロジェクト」を始動し、新しいことや特別なことにわくわくドキドキしながら、日常の遊びや生活を豊かにする体験を園児に与える5つのプログラムを展開しました。

同年6月には年長児を対象に就学準備として幼小連携カリキュラム「わくドキ教室」を始めました。当初、当時小学校長の二見晴彦先生が幼稚園を訪れ、科学実験や小動物との触れ合いを通して、命の大切さを考える授業をしました。平成26(2014)年度か

らは園児たちが小学校へ出向くようになり、理科のみならず音楽や情報、図工と様々な授業を体験しています。

平成24(2012)年7月にスタートした「わくドキたいむ」では、外国人や英語に親しむため、小学校の英語ネイティブ教員が保育やランチに参加しました。その後、平成26(2014)年9月より週1回行われる「英語あそび」へ移行しました。「英語あそび」では、ネイティブ教員と色や身の回りの物を英語で言いながら遊んだり、アルファベットを学んだり、歌や英語劇にも挑戦しています。



「英語あそび」に取り組む園児たち

また、「わくドキらんち」は食育の一環として、園が用意した同じ食事を皆と一緒に食べることで、好き嫌いを克服し、食材に対する興味を喚起することを目的に、平成24(2012)年より始めました。開始時は週1回でしたが、平成28(2016)年より週2回に増やしました。



週2回行われる「わくドキらんち」

この他、平成24(2012)年4月より始まった「わくドキ文庫」は、幼稚園内の「絵本の部屋」にある2,000冊以上の絵本から好きなものを借りて、自宅で保護者と読み、親子のふれあいを深める目的があります(5つ目のプログラム「わくドキくらぶ」は「課外教室の充実」参照)。

「わくドキプロジェクト」以外にも、日出学園幼稚園の特徴的なカリキュラムとして、日本の伝統文化に触れることができる年長児向けの「能楽体験教室」があります。これはNPO法人「鶴亀座」の協力により、平成26(2014)年に始まり、本物の能楽を見聞きし、和楽器にも直接触れることのできる教室です。



和楽器に挑戦する園児たち

幼稚園から中学校・高等学校までSTEAM教育を推進する日出学園ならではの試みとして、令和4(2022)年には、年長児対象の「科学教室」を始めました。「塩のひみつ」や「シャボン玉」など身近な題材を使った実験を通して、園児たちの科学的思考を養うことを目的とした特別教室です。同年9月と12月には、白百合女子大学科学研究事業「たまごのひみつ」も実施し、卵から生まれる生物について学び、実際に卵に触れるなど、科学的実験や体験をしました。

キャッシュレス社会に時代が変わりつつある中では、実物のお金をやり取りする経験が少なく、数字に触れる機会が大きく失われています。そこで、令和4・5(2022・2023)年と継続して年長児を対象にお金について学び、お金や数字に触れるための特別

授業「こどもおかね教室」を千葉県金融広報委員会と共催しました。



2022年に実施された「たまごのひみつ」

3 | 未就園児クラスの導入や課外教室の充実

平成23(2011)年5月より未就園児親子クラス「ふたば」を開始しました。当初は土曜日のみの実施でしたが、平成26(2014)年からは、火曜・木曜・土曜の3コースとし、前期・後期8回、広い園庭での戸外遊びやリズム遊び、親子体操などを親子で体験してもらっています。

また、平成24(2012)年より外部講師を招聘した希望制の課外教室「わくドキくらぶ」を開始しました。年中児・年長児を対象に、降園後に和太鼓、合気道、小笠原流礼法、狂言、書道、茶道、日本舞踊といった日本の伝統文化を体験する活動を行っています。

平成27(2015)年から令和2(2020)年には、ドラムなど様々な楽器に触れ、楽しみながらリズムを学ぶ「リズム・アンサンブル」を実施しました。

平成31・令和元(2019)年からは、年中児から小学校3年生までが楽しみながら正しい学習の仕方を身につけるべく「花まる学習会日出学園教室」をスタートさせました。

令和5(2023)年には、英会話教室の「ECC」、動くおもちゃなどを制作する「造形教室」、バス送迎付きの「アーデルスイミング」と、次々と新しい課外教室を導入しました。また、長年実施してきた体操教師による「スポーツクラブ」も同年、年中・年長児に加え、年少児にも対象を拡大しました。

1 | 教科担任制の導入とカリキュラムの充実

日出学園小学校では、平成22（2010）年度より、5・6年生を対象に算数習熟度別授業を導入、平成31・令和元（2019）年度には4年生にも対象を拡大しました。一人ひとりに合った学習内容により、算数が得意な児童はさらに理解を深め、苦手な児童はじつくりと学ぶことができるようになりました。

また、同年度より理科専科教員を配置し、実験や観察といった体験的な学習を充実させ、児童の自然への興味を引き出し、よりわかりやすい授業を目指しています。

令和3（2021）年度には国に先駆け、4～6年生を対象に「教科担任制」を導入しました。学習内容が高度化する高学年において、児童の学力向上には、各教科に特化した教員のわかりやすく質の高い授業が欠かせません。また、児童が多くの教員と関わりを持つことで、中学校生活への円滑な移行を実現します。

令和4（2022）年度からは、児童のさらなる学力向上に向け、英語と国語教育の強化に取り組んでいます。国語科では、自分の考えを表現する力の育成を目指し、他者との交流を深めることや、言語表現を豊かにする指導を行っています。全学年で漢字能力検定の受験にも意欲的に取り組み、例年高い達成率を実現しています。

英語科では、昭和62（1987）年より4～6年生に週1時間の英語授業を開始しました。その後もグローバル人材の育成を目指し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を児童が自然に習得できるように工夫してきました。平成27（2015）年度からは、6年生を対象に英語の教科型授業をスタートし、中学校英語科教員による週1時間授業で、中学校授業に慣れ、中1ギャップの解消にも努めています。この教科型授業は、平成28（2016）年度には5年生に拡大しました。

平成31・令和元（2019）年に開始した土曜日朝学習の「英語タイム」は、英語専科教員や児童が作成した動画を使い、楽しみながらリスニング力とス

ピーキング力の向上を目指しています。



「英語タイム」で教員が作成した動画

また、同年度より夏季休業中に校内で「英語キャンプ」を実施しています。フィジー、アメリカ、カナダ、オーストラリアなど様々な国の経験豊富な講師と、学年や英語力別に分けた少人数グループで5日間、英語、そして異文化や多様性について学んでいます。

令和5（2023）年度からは、1～4年生を対象に少人数の英会話授業を開始しました。小さなグループ内でコミュニケーションを活発に取りながら、きめ細やかな指導をしています。また同年度より、5・6年生の英語の授業では、試験的に文部科学省より提供を受けたデジタル教科書を使用しています。各自がタブレット端末からデジタル教科書を操作し、一斉授業では聞き取りにくい英語を何度も聞くなど、自分のペースで学習を進められ、理解をさらに深めました。

2 | 少人数教育スタート

小学校の在籍数が一時期1,000名を超えたこともありましたが、少子化の問題も見据え、「児童一人ひとりの笑顔が見える教育を目指して」という基本理念の下、平成22（2010）年より『将来的な日出学園小学校構想』について検討を重ねました。そして平成26（2014）年度入学生より、1学年定員102名（全学612名）の新学校体制をスタートさせ、よりきめ細やかな指導ができるよう、学年に応じた少人数制指導、習熟度別授業、専科教員指導を取り入れてきました。

小学校生活をスタートしたばかりの1・2年生は、基本的な生活習慣、学習習慣を身につけ、担任教員との関わりが密になるよう、1クラス25、6名程度の4クラス編成とし、3～6年生は3クラス編成としました。3年生の算数では教員2名のチームティーチング授業、4年生以上の算数は4クラスに分けた習熟度別授業を実施したことで、学習効率が上がり、児童の満足度が高まりました。学年102名全校20クラス体制は6年間をかけ、平成31・令和元（2019）年に完成し今日に至ります。

3 | アフタースクール「ひのキッズ」の導入

令和4（2022）年4月より、アフタースクール「ひのキッズ」を校内に開設しました。これは日出学園小学校児童を対象とした学童保育で、運営は「明光キッズ」（株式会社明光ネットワークジャパン）が実施します。校内に明光キッズの責任者が常駐し、連絡を密に取り管理業務を行っています。

このアフタースクールを開設したのは、昨今、仕

事をもつ保護者が増加したり、児童が放課後に民間学童保育を利用したり、習い事に通うことで、児童の帰宅経路が変わり、児童の安全や保護者の安心を守る必要性が生じたためです。単に学校で児童を預かるだけでなく、より有意義な放課後を過ごせるよう、宿題タイム、明光キッズの教材を利用した学習タイムに加え、対面での英会話、そろばん、プログラミング、サッカー、ダンス、硬筆習字など様々な習い事講座も充実させています。習い事講座は有償ですが、近年ではキャンセル待ちが発生するほど好評です。

令和5（2023）年4月には、1年生の約半数が利用しており、令和6（2024）年1月現在では1年生から4年生までの99名、1日平均では約60人が利用しています。保護者の就労という理由のほか、帰宅後近所に遊ぶ友達がいないため、週2～3回利用するケースや習い事講座を目的として利用されるケースもあります。

令和6（2024）年4月より、「ひのキッズ」終了後の「高学年向け校内学習コース」も開設しました。

〈表彰〉小学校

和暦	西暦	出来事
平成23	2011	全国書初誌上展で3年・芝本絢海さんが、特別賞『翠軒賞』を受賞
平成24	2012	3年・矢島直幸さん「平成23年度全国児童生徒明い選挙啓発ポスターコンクール」財団法人明い選挙推進協会会長・都道府県選挙管理委員会連合会会長賞を受賞
		第44回手紙作文コンクールで1年・市原光さんが金賞、1年・千葉龍之介さんが銀賞を受賞
平成25	2013	6年・安田智明さん第37回「みどりの絵コンクール」全国2万8,057点の中から毎日新聞社賞を受賞
平成27	2015	第47回手紙作文コンクールで4年・市原光さんが日本郵便賞を受賞（10万5,114点の内8点が選出）
平成28	2016	2年・藤原将真さん 全国作文コンクール「住みよい地球～小学生作文コンクール」、〔第34回 心に残る医療体験記コンクール〕で最優秀賞受賞
平成29	2017	5年・伊藤優太さん『第7回世界剣道選手権大会』出場
		5年・岩崎杏栄さん自由研究「ブラナリアの生態と採取」千葉県児童生徒・教職員科学作品展 入賞
		3年・黒田拓樹さん 第62回「青少年読書感想文全国コンクール」全国大会 入選賞受賞
令和3	2021	5年・宮森茜さん「第37回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 弦楽器部門（バイオリン）小学生 中学年の部」1位
令和4	2022	6年・池田楓音さん「全国学芸サイエンスコンクール・読書感想部門」文部科学大臣賞を受賞
		2年・神田葉子さん「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」銀賞受賞
		3年・佐々木智紀さん「日本漢字能力検定」理事長賞受賞
令和5	2023	2年・杉浦御子さん「手を洗おう、きれいな手!!」ポスターコンクール2022最優秀賞（応募総数11,333点）
		4年・中島賢大さん「ダイソー自由研究コンテスト」（応募総数3,666点）ジュニア高学年部門銀賞
		「2022年度関ヶ原合戦自由研究コンテスト」アイディア賞受賞
		6年・藤代紗弥花さん 作文コンクール「400字で言わせて!!」大賞受賞
		4年・竹内希恵さん、6年・石橋亮さん「第63回 自然科学観察コンクール」佳作受賞
		4年・渡邊光さん「第66回 全国学芸サイエンスコンクール社会科自由研究部門」入選
		小学校 南辰吾さん 第47回ビティナ・ピアノコンペティション全国大会出場
		小学校 須藤嶺さん 第46回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ出場（アーティスティックスイミング）

近15年の歩み「中学校・高等学校」

1 | 特徴的なカリキュラムへの取り組み

日出学園中学校・高等学校では、中高一貫教育の利点を生かし、中学1年生から高校3年生までの計画的なカリキュラムを作成してきました。数学と英語については、中学2年生以上の学年で習熟度別授業を展開し、一人ひとりの力を伸ばす環境を整えるとともに、朝や放課後の補習など、きめ細やかなフォローをしています。

特に英語は多様なカリキュラムを導入し、グローバル人材の育成に力を入れています。中学校では長年ネイティブ教員による英会話の授業を行ってきましたが、平成22(2010)年より教員2名体制の授業にし、英語に慣れ親しみ、聞く・話す力を培うようにしました。高校では、リスニング教材を導入し、聞く・話す力の強化に取り組むとともに、大学受験に向けたきめ細やかな指導をしています。

また、TOEFLをはじめとする留学に必要な英語力を測る資格試験の個人受験のサポートを平成15(2003)年より続けるとともに、日本におけるTOEFL運営会社との連携も重ねてきました。その結果として、TOEFLやTOEICなどを開発する世界最大の非営利テスト作成機関・ETSよりスコア基準等見直しのための世界各国高校生調査への協力依頼があり、平成27(2015)年、日出学園中学校・高等学校は、TOEFL Junior® Comprehensiveのワールドリサーチ校として英語4技能試験を実施しました。平成27(2015)年より毎年、中学1年生～高校2年生までの全員が、TOEFL、TOEIC、GTECといった外部英語資格試験に挑戦しています。

平成17(2005)年に姉妹校となった豪州のセントポールズ・アングリカン・グラマースクールとは、生徒が双方を隔年で訪れ、ホームステイをし、語学や異文化への理解を深めています。日出学園からは夏季休業中に高校生の希望者を対象としたオーストラリアホームステイを実施しています。

また情報科では、平成25(2013)年に専任教員を配置し、最先端の機器とデジタル環境を整えました。



日出学園での交換留学の様子

必修授業だけでなく、3種類の選択授業も開講し、生徒が積極的にコンクールやコンテストに挑戦し、多数の受賞実績を得るなど力を伸ばしています。令和3(2021)年より生徒に1人1台のPCを所持させ、すべての教科において多角的な授業展開やデジタル採点などを可能にしました。

令和3(2021)年には、音楽、美術の芸術科と技術家庭科、情報科、総合探究科を合わせたSTEAM科を設置し、他の教科も含めた多様な教科が連携した分野横断型教育を進め、「複合知」を備えた人材育成も進めました。

平成30(2018)年度の中学校新入生より、表現力、思考力、判断力を口頭試験で評価する新たな入試制度「サンライズ入試」を導入し、新たな個性を持った生徒が入学しました。サンライズ入試は令和5(2023)年度まで続きました。

2 | 高大接続と課外授業の工夫

平成28(2016)年度より、高等学校の理科基礎科目を1年生、専門科目を2年生での履修に変更し、余裕をもって受験対応ができるようにしました。平成29(2017)年度より入学者の増加に合わせ、高校1年生を5クラス編成にし、各自が目指す大学に合わせたクラス編成と科目選択での授業を実施しました。難関の国公立・私立大学等を目指す生徒には、新たに「特別進学(特進)コース」も開設しました。

平成29(2017)年夏季休業期間中には、2つの学習合宿が軽井沢山荘にて立ち上がりました。一つは高校1年生の「特進学習合宿」で、英語、数学、国

語を中心に大学入試を意識した学習を4泊5日で集中的に行います。もう一つは「英語キャンプ」で、外国人講師や留学生と英語でコミュニケーションやディスカッションを行います。英語キャンプはその後登校型になりましたが継続して実施しています。

また、平成23(2011)年、「和洋女子大学と日出学園高等学校との間における連携教育に関する協定」を締結し、高大接続連携を開始しました。平成27(2015)年には、明治大学と「高大連携協定」を締結し(現在は終了)、平成30(2018)年には、杏林大学とも「高大連携協定」を締結しました。

一方で、単に大学受験のためではなく、生徒が自分の将来をしっかりと考え見定める進路指導を行ってきました。授業や部活動の枠を超えて、生徒自らの意思で自由に参加して学習する「放課後学習クラブ」では、平成20(2008)年に「コミュニケーション・ディベート」が開講しました。これは、「友情」や「働く」といったテーマについて議論し思索を深めるもので、中学3年生から高校2年生までの生徒が月1回ペースで活動しています。



「コミュニケーション・ディベート」の様子

平成26(2014)年に開講した「マルチメディア表現演習」は、ICTへの関心のある生徒がテーマを決めて学習するもので、1学期に1回集中開催しました。その後、令和2(2020)年度に「TTT×HINODE デジタル創作体験」として再生し、かつて「マルチメディア表現演習」に参加していた卒業生の有志が、母校の後輩を月1回ペースで指導するようになりました。



「TTT × HINODE デジタル創作体験」の様子

また、令和2(2020)年に開講した放課後学習クラブが、「次世代型キャリア教育 FLYERS」です。学校説明会の手伝いや学校見学の案内など多様な人と交わりながら、「働く」ことの基本を学び、自身の将来像を具体的に想像させるような活動をしています。



「次世代型キャリア教育 FLYERS」の活動風景

令和2(2020)年度には「放課後学習支援センター」を開設しました。これは校内に設けた自習ブースで、運営サポーターとチューターが放課後学習管理を行うものです。塾や予備校に通わずに校内で自立学習の習慣を身につけることを目的とし、長期休業中も利用できる利点があります。

こうした多様な課外活動を含む様々な施策が功を奏し、令和5(2023)年度には難関大学への現役合格の割合が過去最高を記録しました。



校内に設けられた自習ブース

3 | 武善教諭第63次南極地域観測隊同行

令和3（2021）年10月より令和4（2022）年3月にかけて、日出学園中学校・高等学校の情報科教諭である武善紀之教諭が、「教員南極派遣プログラム」の派遣教員に選出され、第63次南極地域観測隊に同行しました。11月10日、武善教諭を乗せた南極観測船「しらせ」は、神奈川県横須賀を出港し、12月1日に南極圏に入り、同月23日、日本から14,000kmも離れた昭和基地に到着しました。



昭和基地に到着した武善教諭

派遣期間中、武善教諭は衛星通信を利用して生徒との交換日記を毎日続け、南極での暮らしや自然の様子等を伝え続けました。武善教諭の今回の大きな目的は、南極の昭和基地と日出学園を衛星通信でつないだLIVE授業を2回行うことでした。そのため武善教諭は事前に、LIVE授業（南極授業）で利用するインテルサット衛星を介した衛星通信において日本側の基地局となるKDDI山口衛星通信所を見学し、衛星通信設備の操作・保守方法を取材しました。南極と日本が衛星通信でリアルタイムにつながる仕組みも、普段スマートフォンで友だちと通信する技術と基本的に同じであることを理解してもらうことで、生徒に南極観測や隊員の役割をより身近に感じてもらえるのではないかと考えたからです。

令和4（2022）年1月29日、日出学園において第1回の「南極授業」を実施しました。対象者は日出学園入学希望者とその家族等です。すっかり日焼けした武善教諭の顔がスクリーンに映し出されると、歓

声が沸き起こりました。武善教諭が南極行きを志望した一番の理由は、「小さい頃からペンギンが好きで、南極の自然の中で暮らすペンギンを生で見たかった」からでした。念願のペンギンを目の当たりにした時の感動や、極寒の昭和基地での生活や活動、極地で生活をする上で通信の確保は命綱であること等について話しました。

2月2日には学内向けに2回目の「南極授業」を、小学生・中学生・高校生の希望者が集まる視聴覚室で行いました。教室と南極が衛星回線によるインターネットでつながっていることを証明するため、児童がAIスピーカーを通して指令を出し、昭和基地の照明やテレビをつける実験を実施しました。実際に照明が点灯しテレビが映ると、児童・生徒は歓声を上げて喜ぶと同時に、衛星回線がつながっていることを実感したようでした。他にも、観測隊員の一人である東京大学研究員による重力実験など様々な研究活動が紹介され、児童・生徒は南極からの授業を食い入るように見つめていました。

このリモート授業には、「南極クラブ」や「ひのぺんず」といった有志生徒もお手伝いで参加しました。授業の様子はYouTubeで配信され、中学生・高校生は各教室のスクリーンやスマートフォンで、小学生や幼稚園児は自宅でライブ配信を見ることができました。

武善教諭は帰国後も、この貴重な体験を日出学園の児童・生徒に伝え続けています。

〈表彰〉中学校・高等学校（部活）

和暦	西暦	出来事
平成22	2010	高等学校軟式野球部、夏の県大会優勝！千葉国体への出場権獲得。南関東大会は惜しくも準優勝
		第65回国民体育大会 ゆめ半島千葉国体 軟式野球部、高等学校野球・軟式に出場
		第65回国民体育大会 ゆめ半島千葉国体 中学校バトントワーリング部、閉会式で演技を披露
平成23	2011	水泳部が高校男子400m自由形リレーで県総体7位入賞、初の関東大会出場（6年・中谷理一さん、6年・石井佑介さん、6年・赤間希哉さん、4年・石川諒さん）
平成28	2016	高校バトントワーリング部 第44回バトントワーリング全国大会出場 銀賞を受賞
		第19回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会男子三段跳び8位入賞 5年・川名祥弥さん
		第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会女子共有ジャベリックスロー出場 3年・餅原綺々さん
平成29	2017	高校バトントワーリング部 第45回バトントワーリング全国大会出場 銀賞を受賞
令和2	2020	高校囲碁将棋部 末原蓮さん 全国高等学校囲碁選抜大会第36回千葉県高等学校囲碁秋季大会 個人戦で優勝
		高等学校軽音楽部(Mars)「全国高等学校軽音フェスティバル」カヴァー部門(邦楽)で優秀作品に選出
令和3	2021	「第1回全日本バトントワーリングジュニア選手権大会」バトントワーリング部4年・神樂梨緒さん優勝 「第2回全日本バトントワーリングジュニア選手権大会」バトントワーリング部4年・神樂梨緒さん3位、5年・桑野花音さん4位
令和4	2022	高校囲碁将棋部 6年 末原蓮さん 全国高等学校囲碁選手権大会 優勝
		中学校バトントワーリング部 全国大会初出場 高等学校バトントワーリング部 全国大会出場(5年ぶり3回目)
		高校バトントワーリング部 6年 神樂梨緒さん 第48回全日本バトントワーリング選手権 出場
		中学校バトントワーリング部 2年 神原葵さん 第48回全日本バトントワーリング選手権 出場
		高校陸上部 5年 鶴ヶ谷隆之祐さん 第16回ジュニアオリンピックカップ出場(男子100m)
		中学校水泳部 1年 金坂友侑さん 第45回ジュニアオリンピックカップ出場
令和5	2023	中学校バトントワーリング部 2年連続全国大会出場
		中学校水泳部 2年 金坂友侑さん 第63回全国中学校水泳競技大会出場
		中学校バトントワーリング部 1年 長谷川実和さん 第5回全日本バトントワーリングジュニア選手権大会出場
		中学校バトントワーリング部 3年 神原葵さん 第5回全日本バトントワーリングジュニア選手権大会出場
		高校軟式野球部 関東大会出場

〈表彰〉中学校・高等学校（個人）

和暦	西暦	出来事
平成22	2010	4年3組田村桃花さん シンクロナイズド・スイミング ジュニア日本代表 アジア大会金メダル
平成23	2011	日本語弁論大会で5年 津村祥子さんが優勝。関東大会出場
		シンクロナイズドスイミング アジアエージグループ選手権大会で田村桃夏さん優勝
平成24	2012	「第15回英語・日本語弁論大会」で折本弓佳さんが日本語部門で優勝
		中国武術の「第4回世界ジュニア武術選手権大会」で荒谷友碩さんが、銀・銅の2つのメダルを獲得
平成26	2014	第21回 JOC ジュニアオリンピックカップ武術太極拳大会南拳部門、南刀部門、南棍部門の3部門で1位 雑賀ヒカルさん、学園特別表彰
平成28	2016	「第3回 LINE クリエイターズスタンプコンテスト」で3年・堀田佑夏さんがグランプリを受賞
平成29	2017	慶應義塾大学「小泉信三賞全国高校生小論文コンテスト」で5年・石橋真里奈さんが最優秀賞を受賞
令和2	2020	第22回「全国中学高校 Web コンテスト」で高等学校生が銀賞とオーディエンス賞受賞
		第16回 IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」で、文部科学大臣賞を受賞
令和3	2021	第23回「全国中学高校 Web コンテスト」で高等学校生が銀賞2年連続受賞
令和4	2022	中学校 1年 鈴木香耶さん 第46回ビティナ・ピアノコンペティション全国大会 出場
令和5	2023	5年・森川亮太郎さん「第2回映像字幕コンペティション」全国第3位
		6年・大石真妃さん「全国学生書道展」大賞

近15年の歩み「同窓会」

1 | 同窓会体制の変化について



平成23（2011）年の同窓会総会

平成23（2011）年、創設60周年を祝う同窓会総会が開催され、第8代会長（初代は学園長が兼務したため、同窓生としては第7代）・鹿島隆雄氏が満場一致で承認されました。また、1万6,000人を超える卒業生を擁する同窓会を活気づけるため、平成27（2015）年度より、副会長を3名から5名に増員し、若手の副会長を採用することになりました。

同窓会は今後も会員数の増加が見込まれますが、会費納入者数は1,500人程度と横ばいが続き、将来的な運営が案じられる状況にありました。そこで、財政安定と魅力ある同窓会づくりのため、「終身会費制度」を導入しました。年会費2,000円の旧制度を廃止し、平成28（2016）年3月までの卒業生は、一律2万円、平成29（2017）年3月以降の卒業生は、3万5,000円の終身会費を納めてもらうことにしました。

平成31・令和元（2019）年に開催された総会では、馬場義一氏が第9代会長（同窓生では第8代）に就任しました。総会後の懇親会では、新卒業生である74期生歓迎会も行われ、世代を超えての交流を深めました。

同窓会創設70周年を迎えた令和4（2022）年には、日出「同窓会報」のカラー印刷を開始し、とても読みやすくなったと好評です。

2 | 瑞穂会の活動について

瑞穂会は卒業生有志からなる水泳団体で、臨海学校での水泳指導と日出学園伝統の「日本泳法神伝流」

の継承を目的に活動しています。昭和31（1956）年度卒業生を中心に昭和32（1957）年に発足、当初の臨海学校は都立日比谷高校一水会の指導の下に行っていましたが、昭和39（1964）年より瑞穂会単独で運営を始めました。



臨海学校での遠泳

平成26（2014）年に独立50周年、発足からは57年を迎える記念式典を開催しました。また瑞穂会の活動の足跡を記した記念誌『軌跡』を刊行しました。

3 | 入学お祝い制度・成人式同窓会スタート

同窓会では若い世代の会員のつながり強化や活動の活発化にも取り組んできました。

令和5（2023）年4月には、同窓生のお子様の入園・入学をお祝いし同窓会会員相互の交流親睦を図り、日出学園の発展に貢献することを目的とした「入学お祝い制度」を導入しました。対象は小学校、中学校、高等学校のいずれかを卒業した方で、お子様が幼稚園、小学校、中学校、高等学校に入園・入学された方です。幼稚園入園時には5,000円、小、中、高入学時には1万円が贈られました。

また、平成30（2018）年に「成人を祝う会」を初めて開催しました。成人を迎えた71期生たちは、母校の恩師や友人たちと久しぶりに再会し歓談しました。以降、コロナ禍で遅れたこともありましたが、毎年実施しています。成年年齢が18歳に引き下げとなった令和5（2023）年度からは「二十歳の同窓会」に改称しました。

近15年の歩み「ひので会」

1 | スポーツ大会、講演会

保護者で組織されるひので会では、これまで主にスポーツ大会や講演会の企画を行ってきました。

幼稚園・小学校・中学校・高等学校全ての保護者と教職員を対象に毎年行われてきたスポーツ大会では、ソフトバレーボールや「ダンシング玉入れ」等の競技を実施してきました。平成28（2016）年には、過去最多となる280名もの参加者で賑わいました。新校舎移転やコロナ禍などで開催が難しい年もありましたが、外部会場でボウリング大会を行いました。



外部会場で行われたボウリング大会

講演会は毎年、ご縁のある著名人や幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭などに講師をお願いしています。平成31・令和元（2019）年の講演会では、第一部に小学校の北村小百合教諭、第二部に中学校・高等学校の大山雄一郎教諭にお話しいただき好評を得ました。

2 | ひので会バザー、制服リサイクル

校舎移転等の影響もあり、しばらく不開催だった「ひので会バザー」が、平成24（2012）年10月の日出祭にて復活しました。保護者より持ち寄られた品物を低価格で販売するバザーは、地域の方々にも大好評で、開場前から行列ができ、整理券を発行するほどでした。以降、平成31・令和元（2019）年まで毎年実施してきましたが、コロナ禍で中止し、現在に至っています。

一方、卒業された方の制服や、サイズが合わなくなったり、不要になった学校指定のシャツ等を販売

する「制服リサイクル」は、平成31・令和元（2019）年までバザーの一部として行われていましたが、バザー中止後も、保護者からのニーズも高く、バザーから切り離し、令和2（2020）年11月に再開しました。以降、毎年実施し、好評を得ています。



保護者で賑わう「制服リサイクル」

3 | 「ひので会報」市川市学校新聞展にて優秀賞受賞：2009年

保護者の視点で情報を発信する「ひので会報」の173号（平成21（2009）年7月5日発行）が、市川市学校新聞展において優秀賞を受賞しました。卒業生である担当者が、自身の経験や日出学園の歴史も踏まえたトピックスづくりを行ったことが受賞の一助となりました。過去にも164号（平成18（2006）年7月10日発行）と170号（平成20（2008）年7月5日発行）が同賞の榮譽に輝いていますが、外部から高い評価をいただき、大きな励みとなりました。

4 | 2017年会報部ウェブ配信を開始

昭和29（1954）年創刊の「ひので会報」は146号（平成12（2000）年7月10日発行）よりカラー化され、平成24（2012）年度の184号（平成25（2013）年3月7日）をもって紙媒体での発行を終了しました。以降はウェブ上で公開するようになり、平成26（2014）年に創刊から60周年を迎えました。平成29（2017）年にはブログとして配信を始め、これまで以上のスピード感で、充実した内容を届けられるようになりました。読者からはスマホで読めて便利、写真から様子がわかりやすくなったと好評を得ました。

日出学園 75 年の歩み 昭和9(1934)年～平成21(2009)年

- 昭和 9 (1934) 年 2月 日出学園と命名。初代理事長青木要吉就任
- 3月 日出学園幼稚園、小学校設立認可される
- 3月 初代園長平田華蔵就任
- 4月 開校(6日)
- 校訓「なおく・あかるく・むつまじく」に制定
- 昭和13 (1938) 年 6月 青木要吉理事長死去、2代青木正雄理事長就任
- 昭和16 (1941) 年 2月 財団法人日出学園となる
- 昭和17 (1942) 年 9月 園歌制定(第3回卒業生寄贈)
- 昭和19 (1944) 年 4月 創立10周年記念式典開催
- 昭和22 (1947) 年 4月 日出学園中学校開校
- 昭和23 (1948) 年 7月 初の臨海学校を谷津遊園にて開校
- 昭和24 (1949) 年 8月 勝山にて臨海学校始まる(中学校)
- 昭和25 (1950) 年 4月 日出学園高等学校開校



昭和9年10人の入学園児

開校

創立35周年



平成21年 竣工した新園舎(幼稚園)



平成15年 青木登学園長の学園葬



平成21年
75周年記念祝賀会

- 平成14 (2002) 年 4月 新学習指導要領実施による週5日制授業導入(小・中・高)
- 土曜教室(小)、土曜講座(中・高) 開始
- 平成15 (2003) 年 4月 青木登学園長辞任、13代青木貞雄学園長就任(理事長兼務)
- 平成16 (2004) 年 6月 オーストラリアの私立学校、セントポールズ・アングリカン・グラマースクール(メルボルン)の留学生22名を受け入れ
- 平成20 (2008) 年 8月 新校舎完成(小・中・高)、ITシステム稼働
- 平成21 (2009) 年 8月 新園舎完成(幼稚園)
- 11月 創立75周年記念式典

創立75周年

1934
(昭和9)



昭和28年
勝山での夏期合宿



昭和29年
創立20周年記念式典



昭和40年 軽井沢での夏期合宿



昭和46年 学園祭体育リクリエーション

1969
(昭和44)

- 昭和26 (1951) 年 7月 学校法人日出学園と改称
- 昭和28 (1953) 年 7月 軽井沢に「軽井沢山荘」建設、林間学校開校
- 昭和29 (1954) 年 4月 ひので会発足
- 創立20周年記念式典
- 校訓の額「誠明和」を掲げる
- 昭和31 (1956) 年 3月 松友会発足
- 7月 瑞穂会発足
- 昭和34 (1959) 年 11月 創立25周年記念式典
- 昭和38 (1963) 年 4月 青木正雄理事長死去、3代畠山蔵六理事長就任
- 昭和39 (1964) 年 5月 創立30周年記念式典
- 8月 瑞穂会独立。臨海学校が勝山から岩井へ
- 昭和43 (1968) 年 3月 畠山蔵六理事長辞任、4代青木登理事長就任
- 昭和44 (1969) 年 12月 創立35周年記念式典

1974
(昭和49)

- 昭和49 (1974) 年 6月 創立40周年記念式典
- 昭和56 (1981) 年 9月 公益信託日出育英会奨学基金発足
- 昭和59 (1984) 年 6月 創立50周年記念式典
- 平成 6 (1994) 年 11月 創立60周年記念式典
- 平成11 (1999) 年 4月 パソコン教室新設、41台のパソコン設置
- 平成12 (2000) 年 3月 青木登理事長辞任、学園長就任。5代青木貞雄理事長就任
- 4月 部長制から校長・幼稚園長へ
- 6月 日出学園ホームページ開設
- 幼稚園、週5日制保育導入

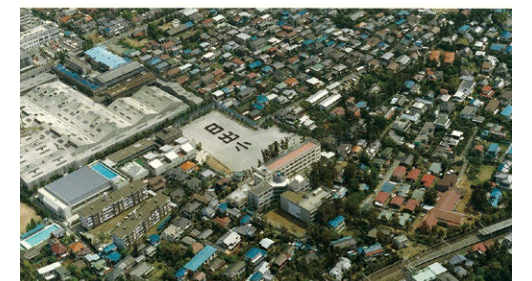


昭和49年
小柳名譽団長のあいさつ
(創立40周年記念式典)



昭和59年
創立50周年記念式典

2009
(平成21)



昭和59年 50周年記念に行われた空撮



平成元年 軽井沢山荘の竣工式



平成6年 創立60年を祝う会

編集後記

創立 90 周年を迎えるにあたり、記念事業委員会を立ち上げたのが 2021 年秋のことでした。「100 周年を迎えるためのステップ」というテーマのもと、これまでの資料をデータ化して保存し直し、日出学園の歴史を整理するところから着手し、正式なスクールカラーの制定や、初代理事長である青木要吉の胸像設立によって、日出学園のアイデンティティを再認識することができました。

本誌では、既刊の『創立 75 周年誌』をできる限り要約し、近 15 年間の出来事について詳細に記録しました。また、創立 100 周年という 10 年後の未来に向けて、在園生・在校生からは「将来の夢」について語ってもらい、その夢を叶えるための施設・環境整備を、本記念事業の本旨としました。在園生・在校生の夢を叶えることが、すなわち学園の夢であるからです。来る創立 100 周年を迎える時、現在の在園生・在校生がどのような成長を遂げているのか、今から楽しみでなりません。

最後に、本誌の編纂にあたってご協力をいただいた学園役員の皆様、現任・退任教職員の皆様、ひので会の皆様、同窓会の皆様、そして株式会社出版文化社の皆様には心より感謝申し上げます。本誌をとおして、本学の歴史と取り組みについてご理解を深めていただき、来る創立 100 周年への期待を膨らませていただけたら幸甚でございます。

語りたい夢があります 日出学園創立 90 周年誌

2024 年 11 月発行

発 行

学校法人日出学園

〒 272-0824 千葉県市川市菅野 3 丁目 23 番 1 号

編集・制作

株式会社出版文化社

東京・日本橋茅場町 大阪・新大阪 名古屋・金山

印刷・製本

TOPPAN クロレ株式会社

© 2024 HINODE GAKUEN. Printed in Japan